

報告事項 1

第 2 回 S L 復元検討委員会（大井川鐵道視察）報告について

1. 概要

明知鐵道における SL 復元の検討を行うにあたり、SL の知見を得るため先進地として実際に SL 運行をしている大井川鐵道への視察を行った。

2. 日時

令和 6 年 1 月 22 日（月） 9 時～17 時

3. 視察

① 大井川鐵道の取り組み

○SL の運行について

- ・沿線外からの来訪を促すことと、路線を維持するために S L を運行
- ・ 5 機目の S L 整備（クラウドファンディング 4,313 名/84,226 千円）
- ・ きかんしゃトーマスを活用した誘客を行っていたがコロナ禍で利用者減

○鐵道以外の事業について

- ・ 川根温泉ホテル（指定管理）
- ・ 関連会社（乗合バス事業、貸切バス事業、タクシー事業、旅行業）

○SL 運行の難しさについて

- ・ 技術の継承、人材の育成確保
- ・ SL 及び客車の維持いずれも部品の確保が困難
- ・ 災害復旧に費用を要する。
- ・ 自治体支援はなし

② S L 乗車（かわね路号）

- ・ 新金谷→家山間の SL に乗車（乗車前に S L 及び施設を視察）
- ・ 現在大井川鐵道の一部区間が災害で運行できないことから、新金谷→家山の片道を乗車 ※本来の S L 運行は新金谷⇄千頭駅間を運行



③ KADODE OOIGAWA 視察

- ・2020年11月12日にJ A おおいがわ・島田市・大井川鐵道・NE XCO 中日本の4社連携プロジェクトとしてオープンした緑茶／農業／観光の体験型フードパーク。大井川鐵道で昔活躍した「C 1 1 形 312 号機」を施設内に復元展示



4. 視察のまとめ（委員の意見及び確認できた事項）

- ・大井川鐵道の始点と終点には観光地が無いのに対し、明知鐵道沿線には中山道大井宿や岩村城下町、日本大正村などの観光地がある。SL 乗車と観光地を組み合わせ、既存の観光地を磨き上げることができれば、観光振興につなげることができると感じた。
- ・大井川鐵道では地域との連携が十分でないとのことだが、地域の活性化に結び付けるには地域との連携は欠かせない。地域の人と一緒に考えていく必要性を改めさせられた。
- ・恵那市が2050年カーボンニュートラルを目指す中、SLからのCO2排出対策も必須となる。その対策として、集塵施設を設置するだけでなく、例えば石炭からバイオ燃料に置き換えたCO2の削減が可能か等の検討も同時に進める必要がある。
- ・SL運行を継続させるは、リピーターを確保することも重要である。大井川鐵道ではリピーターは多くないと聞いたが、プレミアムを付けた旅行パックや市内の観光地につなげ何度も足を運びたいくなる付加価値を加えることがSL運行の継続と地域の活性化につながる。
- ・大井川鐵道でのSL運行が黒字で運営していることに驚いた。運行のやり方次第では可能と感じたが、明知鐵道の生活路線に影響させないよう並列するのが課題だ。そのため、人流の可視化など、効率の良い運行方法を見出すことが大事だ。
- ・公共交通の運転手は高齢化が進み人手不足といわれる中で、大井川鐵道では若い機関士が生き生きと働く姿が印象的だった。SL復元は観光振興だけでなく、雇用の創出にもつなげていけると感じた。
- ・収入の確保について、SLに乗ってもらっただけでなく、車内販売を加えている点は、効果的である。明鉄でのSL運行には、地域と連携した地域限定の商品販売などを行い、更なる効果を狙うべきと思った。

今回の視察を踏まえ、課題や検討事項を整理・確認し、SL復元に向けた検討を進めていく